



第204號 (第 18 卷)

(昭和13年) 4 月 號

今1938年に記念さるべき人々

今年中に、わが天文界や、數學、物理學等の關係深い學界に於いて特に記念すべき偉人碩學は多い。

時代の順から言へば、今1938年は、かの新學の先驅者たるイタリアのガリレオ Galileo Galilei が有名な“力學問答” Dialogos を出版した1638年から300年目に當る。

反射鏡の發明者として有名なグレゴリ James Gregory (1638年生, 1675年死) が生れてから、今は300年目である。グレゴリはオクスフォード Oxford 大學教授デビッド・グレゴリの弟で、年齢24歳の時 (1663年), “Optica Promota” といふ書物を書いて、其の中に自ら考案した反射鏡の構造を記し、又、同時に、太陽の視差 (太陽の距離を決定するための基數) を精確に決定するには水星や金星の如き内遊星の太陽面通過の觀測を利用するのが好いことを提示した。グレゴリは、イタリア國のパトバ大學で勉學し、オランダの學者ハイゲンスと論争したこともあり、大ニウトンとも交際し、1668年にはセント・アンドルース St. Andrews 大學の數學教授となり、次で1674年にはエデンボロ Edinburgh 大學の數學教授になつた。彼の著書 Geometriae Pars Universalis の中には光度による星の距離の算出法が創意されてある。1675年10月に、學生に木星の衛星を見學させてゐる時、眼を損じ、其の後、まもなく死去した。

當時、英國オクスフォード Oxford 大學の天文學のセザル講座教授 Savilian Professor たるレン Christopher Wren の後繼者として、ベルナード Edward Bernard (1638年生, 1697年死) といふ人があつた。ベルナードはオクスフォード大學のセント・ジョン St. John 大學を卒業した神學者で、天文學講座は1673年から1691年まで擔當した人であるが、彼が残した唯一の天體觀測記録は1684年

7月2日の日食観測であつた。尤も、其のほかにも、彼は夥しい數學の文献を蒐集した。ベルナードの後継者は、前記デビッド・グレゴリであつた。

今から200年前の1738年11月15日には**大ハルシエル** Wilhelm Herschel がドイツ國ハンノーヴァ Hannover で生れた。ハルシエルは、音樂家であるが、若い頃に英國に移つてから趣味として數學と天文研究を勵み、1773年から反射望遠鏡の自作を試み、1781年には天王星を發見し、其の一生を献げて、宇宙の構造の究明のために盡し、800ケの二重星と2500ケの星霧を發見し、1783年には太陽系の運動を發見し、天體物理學の創始者として、古き天文學に至き新しい進路を與へ、實に偉大なる足蹟を印した學者であつた。

英國陸軍將校**パルマー** Henry Spencer Palmer (1838年生、1893年死)は測地學者で、東洋に渡來して、香港の觀測所を創設し、又、日本にも來て、種々の公役を援助した。

米國では、1838年に**ワトソン** James Craig Watson が生れた。彼はミシガン州 Ann Arbor 大學で、ブリュンノウ Brünnow 教授の唯一の弟子であつて、ブリュンノウの去つた後、後を繼いでアンナボア大學天文臺長となり、後、キスコニン大學天文臺長に轉じた。彼は眼視法によつて新しい小遊星を22個も發見し、又、“理論天文學”と云ふ良い著書を書いた。之れは永い年間、軌道算出法の英語の標準書であつた。(1838—1880)

同じ1838年に、米國ニウヨーク市で**ヒル** George William Hillが生れた。彼は大學卒業後、ワシントンの編曆局に入り、1861年から1877年までは金星の軌道を研究し、次で月の運動を研究し、1909年にはコプリ Copley 金牌を授けられた。1877年から1892年まで、彼は木星と土星の運動を研究し、300年間も使用し得る表を作製した。1887年には英國ロイヤル天文學會の會友に推されて、名譽ある金牌を受けた。

ドイツでは**アウエルス** Georg Friedrich Julius Arthur Auwers が1838年にゲチンゲン Göttingen に生れた。1860年に蝸座新星を發見し、1874年と1882年とは金星の太陽面通過を觀測する遠征隊を監督し、又、1881年にはベルリン大學天文臺長となつた。彼の遺した最も重要な業績はブラドリ Bradley、ピヤジ Piazzi 等の恒星位置觀測結果を整理して、ドイツ曆のために基本恒星

目録を作製したことである。

アメリカの實地天文學の元勳 **パウデチ** Nathaniel Bowditch は1838年に死んだ。生年は不明である。彼は佛人ラブラトスの名著“Mecanique Celeste”を英譯して、米國天文學史上に一大時期を劃した。

バーナム Sherburne Wesley Burnham は1838年に米國 Thetford に生れ、50年間裁判所の書記の業務の傍ら、二重星の觀測に従事した。口径15糎の望遠鏡で457ヶの二重星を發見したことを手始めとし、1921年に没するまでに總計1340ヶの新二重星を發見し、尙ほ1906年には General Catalogue of Double Stars を作製して標準書として貴ばれた。

西曆238年、ローマの**センソリウス** Censorius は自著 De Die Natali を發表し、天體と人生との交渉(占星學的)や、時刻法、天文と紀年法や、古昔のカルデヤ人、エジプト人、ギリシヤ人等の用ゐた曆學的週期のこと等を論じた。此の書物はモード W. Maude の英譯(最初の11章は省略)があるが、他の著書も、彼れの經歷も、一切は不明である。

月面の研究者**エルガ** Thomas Gwyn Elger (1838—1897) はベドフォード Bedford に生れ、天文學、微生物、水生物等の研究に興味を有ち、殊に月面の觀察を熱心に行ひ、1895年に The Moon といふ書を著し、徑46糎の月面圖を發表した。

アラビヤの昔、**アルハゼン** Abu-Ali al-Hazen (987—1038年) はバスラ Basra に生れ、數學者として、エジプトのカイロの教王カリフ・ハケム Hakem に仕へ、光學に造詣深く、實にトレミイ以來の大觀測者として、學界に認められてゐる。此の觀測記録は1572年にスエズ國のバゼルで印刷、出版され、ケプラーの天文研究のために重要な資料となつた。シレータ Schröter は彼の名を月面の噴火口の一つに命名した。ところが、此のアルハゼン山は其の後、月面から消えたとかで、見失はれたので、メドラー Mädler は更に別の山にアルハゼン山の名を附したこともあつたが、近年、バート Birt は元のシレータの命名したアルハゼン山を見附け出した。

英國の**モ** William Henry Maw は、1838年に生れ、1924年に死んだ人で、1890年大英天文協會創立の時に之れに加はり、1898—1900年には會長となり、

1905—1907年にはロイヤル天文學會々長となつた。彼は二重星の觀測に専心し、見事な業績を残した。

イタリア國では1838年に生れた **タッキニ** Pietro Tacchini といふ天文家がある。モデナ市で生れ、其の市の大學を卒業した。19歳の時に行つた天體觀測によつて、當時のロマ學院天文臺長セキ師に知られ、1863年にパレルモ天文臺の一助手となり、毎日、太陽の黒點や紅焰を觀察し、スケッチした。後に彼はパレルモ天文臺長となり、更に其の後、ロマ學院天文臺長セキの後繼者となつた。タッキニは30年にわたり、太陽の紅焰を觀測研究し、之れが黒點と共に増減することを見出した。其の他、彼は金星を觀察し、又、氣象の觀測をもやつた。1888年に彼は英國ロイヤル學會からロムフオド賞牌を授けられ、又、1892年には佛國のアカデミからジャンサン金牌を獲た。(終)



インドの理學大會

去る1月3日からインドのカルカタ市では Indian Science Congress Association の第25回年會が開かれた。英國本國からも多くの學者が参加した。會長はケンブリヂ大學の Rutherford 卿の豫定であつたが、昨年末、同卿が逝去されたので、急に Sir James Jeans が會長となられ、ジーンズ博士は特にラサルフオド卿の遺稿を朗讀し、其の功蹟をたゞへ、“卿の地位と功蹟は、只、ニウトンと比肩すべきのみである”と言はれた。

ジーンズ博士は此の機會にインドの近來の優秀な理學者たちの業蹟を賞揚し、殊に數學物理天文の方面に於いて、Ramanujan (若くして死んだ數學者)、Sir Venkata Raman (音響學、音樂、スペクトル學上の功蹟者)、M. Saha (天體物理學者)、Chandrasekhar (恒星構造學者)、Kothari (恒星構造學者) 等の名を擧げた。1911年頃は英國ロイヤル學會員にインド人は一人も居なかつたのであるが、1936年にはインド人が10人となつてゐる。